

第 59 回 SGRA フォーラム（企画案）
第 3 回「日本・中国・韓国における国史たちの対話の可能性」円卓会議
「17 世紀東アジアの国際関係一戦乱から安定へー」

日 時：2018 年 8 月 24 日（金）～28 日（火）

会 場：韓国ソウル市Kホテル

主 催：渥美国際交流財団関口グローバル研究会（SGRA）

共 催：科学研究費新領域研究「和解学の創成」、早稲田大学東アジア国際関係研究所、ソウル大学日本研究所

助 成：東京倶楽部

■フォーラムの趣旨：

東アジアにおいて「歴史和解」の問題は依然大きな課題として残されている。講和条約や共同声明によって国家間の和解が法的に成立しても、国民レベルの和解が進まないため、真の国家間の和解は覚束ない。歴史家は歴史和解にどのような貢献ができるのだろうか。

1600 年を挟む約 1 世紀は東アジアが 3 度目の大規模な戦乱に直面した時代であった。東アジアには中国市場が世界に求めていた銀を朝鮮から製錬技術を学んだ日本が大量に供給したことを一因として緊密な経済関係が生まれる一方、経済繁栄は域内の諸民族に政治的覇権への欲望も生み出した。日本の豊臣秀吉と満洲のホンタイジによる各 2 度の朝鮮侵攻および満洲族による中国での清朝の創立である。経済の相互依存の深まりと各国の覇権争奪の同時進行が生んだ大規模な戦乱、およびその後の長期安定は、現代の東アジアに対して深い自省を促すことであろう。

ただし、この会議の目的は何らかの合意を得ることにはない。立場によりさまざまな歴史があることを確認した上で、「対話」により相互の理解を深めてゆくのが目的である。

なお、円滑な対話を進めるため、日本語⇄中国語、日本語⇄韓国語、中国語⇄日本語の同時通訳をつける。円卓会議の講演録は、SGRA レポートして 3 カ国語で発行し SGRA ホームページに掲載する。

■フォーラムの経緯：

渥美国際交流財団は 2015 年 7 月に第 49 回 SGRA（関口グローバル研究会）フォーラムを開催し、「東アジアの公共財」及び「東アジア市民社会」の可能性について議論した。そのなかで、先ず東アジアに「知の共有空間」あるいは「知のプラットフォーム」を構築し、そこから和解につながる智恵を東アジアに供給することの意義を確認した。

このプラットフォームに「国史たちの対話」のコーナーを設置したのは 2016 年 9 月のアジア未来会議の機会に開催された第 1 回「国史たちの対話」であった。いままで 3 カ国の研究者の間ではさまざまな対話が行われてきたが、各国の歴史認識を左右する「国史研究者」同士の対話はまだ深められていない、という意識から、先ず東アジアにおける歴史対話を可能にする条件を探った。具体的には、三谷博先生（東京大学名誉教授）、葛兆光先生（復旦大学教授）、趙珖先生（高麗大学名誉教授）の講演により、3 カ国のそれぞれの「国史」の中でアジアの出来事がどのように扱われているかを検討した。

第 2 回対話は、自国史と国際関係をより構造的に理解するために、「蒙古襲来と 13 世紀モンゴル帝国のグローバル化」というテーマを設定した。2017 年 8 月に日本・中国・韓国・モンゴルから 11 名の国史研究者が北九州に集い、各国の国史の視点からの研究発表の後、東アジアの歴史という視点から、朝貢冊封の問題、モンゴル史と中国史の問題、資料の扱い方等について活発な議論が行われた。この会議の諸発表は、東アジア全体の動きに注目すると、国際関係だけでなく、個別の国と社会をより深く理解する手掛りも示すことを明らかにした。

第 3 回対話はさらに時代を下げて「17 世紀東アジアの国際関係」と設定した。この円卓会議は 2016 年度から毎年 1 回、全部で 5 回開催し、残りの 2 回は近現代をテーマとして取り上げる予定である。

■日程

8 月 24 日（金）午後 6 時～歓迎夕食会

8 月 25 日（土）午前 9 時～12 時 30 分 開会と基調講演、円卓会議（発表①）

＜午後はアジア未来会議の開会式・基調講演・シンポジウム・ウェルカムパーティー参加＞

8 月 26 日（日）午前 9 時～午後 5 時 30 分 円卓会議（発表②、③、討論、総括＋パネルディスカッション）

発表セッションは 90 分で、3 名の研究発表（各 20 分）＋相互にコメント（返答を含め各 10 分）

＜午後 6 時～アジア未来会議のフェアウェルパーティー参加＞

8 月 27 日（月）スタディツアー（南漢山城）

■プログラム

【基調講演】趙琬（韓国国史編纂委員長）

「17世紀東アジア史の展開と特性—韓国史の展開を17世紀の世界史の中でどのように眺めるか」

【研究発表】日中韓から3名：できるだけ各国の研究が、倭乱、胡乱、経済/生活をテーマとするように。

【自由討論】

| | | | | |
|----|-------|--------------------|---------------------|-------------------------|
| 日本 | 荒木 和憲 | Araki Kazunori | 国立歴史民俗博物館 | 「壬辰戦争」の講和交渉 |
| 日本 | 鈴木 開 | Suzuki Kai | 東京大学 | 「胡乱」研究の注意点 |
| 日本 | 牧原 成征 | Makihara Shigeyuki | 東京大学 | 日本の近世化と土地・商業・軍事 |
| 韓国 | 崔 永昌 | Choi Youngchang | 国立晋州博物館 | 韓国から見た壬辰倭乱 |
| 韓国 | 許 泰玖 | Huh Tae-koo | カトリック大学校 | 「礼」の視座から見直した丙子胡乱 |
| 韓国 | 崔 姪姫 | Choi Joo-hee | 国学振興院 | 17世紀前半の唐糧の運営と国家の財政負担 |
| 中国 | 趙 軼峰 | Zhao Yifeng | 東北師範大学 | 中朝関係の特徴および東アジア国際秩序との繋がり |
| 中国 | 祁 美琴 | Qi Meiqin | 人民大学清史研究所、『清史研究』編集長 | ラマ教と17世紀の東アジア政局 |
| 中国 | 鄭 潔西 | Zheng Jiexi | 寧波大学人文学院 | 欺瞞か妥協か——壬辰倭乱期の外交交渉 |

【パネルディスカッション】「和解に向けた歴史家共同研究ネットワークの検証」

■パネルディスカッションに早稲田大学より招待

【日本】三谷博（跡見学園女子大学）、浅野豊美（早稲田大学）

【韓国】趙琬（国史編纂委員会）、朴薫（ソウル大学）

【中国・台湾】楊彪（華東師範大学）、王文隆（台湾政治大学）

【在日研究者】段瑞聡（慶応義塾大学）

■国史研究者を招待

塩出浩之（京都大学）、金甫杳（嘉泉大学）

■実行委員会（*ソウル会議には不参加）

①コアメンバー

葛兆光（復旦大学）*、趙琬（高麗大学名誉教授）、三谷博（東京大学名誉教授）、劉傑（早稲田大学）

②サポートグループ

李恩民（桜美林大学）、徐静波（復旦大学）*、村 和明（東京大学）、彭浩（大阪市立大学）*、孫軍悦（東京大学）、金範洙（東京学芸大学）、金キョンテ（高麗大学）、鄭淳一（高麗大学）

③同時通訳（できるだけ同じ人をお願いする）

日本語⇄中国語：丁莉（北京大学）、宋剛（北京外国語大学）

日本語⇄韓国語：李へり（韓国外国語大学）、安ヨンヒ（ソウル外国語大学院大学）

中国語⇄韓国語：金丹実（フリーランス）、朴賢（京都大学）

④事務局（渥美財団） 今西淳子、角田英一、本多康子

⑤論文の翻訳と校正 劉傑+早稲田大学グループ

⑥予稿集とレポートの編集 日本語版：長井亜弓、韓国語版：高熙卓、中国語版：孫建軍

■タイムライン

12月末まで…発表者確定

2月12日まで…演題、発表要旨、略歴提出

4月末まで…発表論文（フルペーパー、5～10ページ程度）提出

6月中旬～7月末…日中韓三か国語に各論文を翻訳

8月上旬…会議資料送付、および予稿集作成

8月24日～28日…第3回「国史たちの対話」円卓会議（第4回アジア未来会議@ソウルの日程内で開催）

8月末まで…既出の発表論文の修正および改稿

年度内にレポート（論文集）の編集と発行完了

■その他

・アジア未来会議参加者は誰でも参加（聴講）できる。（当日参加者もアジア未来会議の参加費を支払う必要あり）